

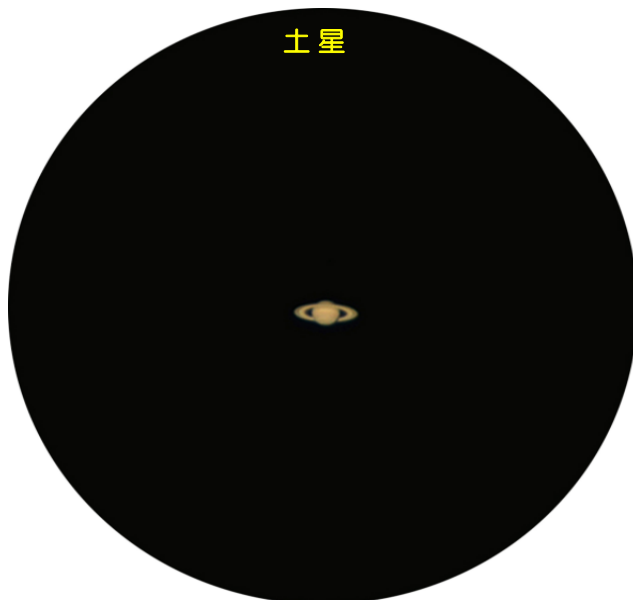
チャレンジ天文台で撮影した天体写真 2



青空の中に見えた金星です。低倍率で見ると左のようにキラキラ輝いて見えます。倍率を上げると背景の空が暗くなり、金星も適度な明るさになります。



おおいぬ座のシリウスという星を日中に見た様子です。青白い光の星だということもわかります。



20cm望遠鏡400倍で土星を観察したときのイメージです水星・金星・火星・木星は日中でも観察できますが、土星はやや暗いため日中に観察することはかなり困難です。



これは太陽ですが、10cm望遠鏡に特別な装置を取り付けると、太陽の周囲にプロミネンスと呼ばれる赤い炎のようなものが飛び出た様子を見ることができます。

[二重星]

アルビレオは肉眼で見ると1つの星に見えますが、望遠鏡ではオレンジ色と水色の2つの星に見えます。実際に望遠鏡をのぞくと、この写真よりも鮮やかな色に見えます。

また、ミザールの写真で左に写っている星は、視力が1.0程度ある人は、肉眼でもミザールのすぐそばで光っているのが見えます。



色の対比がきれいな二重星
(はくちょう座のくちばしの星)



右の星が二重星のミザール
(北斗七星の柄の先から2番目の星)

[星雲・星団]

主な星雲・星団にはM（メシエ）番号が付いています。チャレンジ天文台では、望遠鏡操作用のノートパソコンに、キーボードからこの番号を入力することで、目的の星雲や星団を望遠鏡に導入することができます。

ここに、紹介した3つの星雲・星団は夏の夜空に見られる代表的なものです。望遠鏡で観察すると、光が弱いため色は写真のように見えませんが、形は写真と同じように見えます。



こぎつね座の惑星状星雲 M27



こと座の惑星状星雲 M57



ヘルクレス座の球状星団 M13

これらの星雲や星団は、夜にならないと観察することができません。チャレンジ天文台を夜間に利用したい場合は、教育委員会主催で実施されている「天体観望会」に参加する方法があります。この観望会は、富良野圏在住の人を対象としていて、例年、冬季を除き、毎月1回実施されています。なお、実施期間の詳細はその年によって変更もあります。参加希望者は教育委員会への申込みとなっています。詳しい内容は観望会実施期間中の『広報かみふらの』に毎月掲載されています。

[連絡先] 上富良野町教育委員会教育振興課
社会教育班 Tel0167-45-5511

天体写真の撮影に使用した望遠鏡・カメラ等

[望遠鏡] 中央光学 口径200mm 焦点距離2000mm EDアポクロマト屈折式望遠鏡
PENTAX 口径105mm 焦点距離1000mm SDアポクロマト屈折式望遠鏡

[カメラ] SONY NEX-5N
Nikon COOLPIX 990 (プロミネンスの写真のみ)

[その他] ・ソーラープロミネンスビューアー (プロミネンス撮影用)
・太陽観測用対物減光フィルター (太陽の全面写真撮影時の減光用)
・サンプリズム (太陽の拡大写真撮影時の減光用)